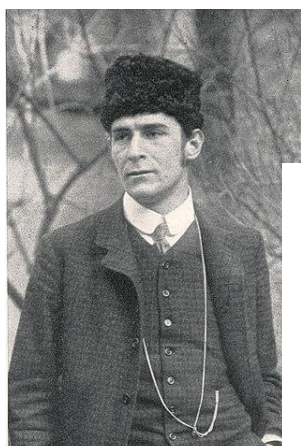


2013 年度秋学期 貴重書・特別資料展示

オープンカレッジ講座 連動企画

「ドイツ表現主義」とは何か

—ヒトラーと退廃芸術をめぐる—



表現主義の芸術家たち（左からマルク、カンディンスキー、クレー）

獨協大学図書館 2階 貴重書展示コーナー

2013年11月7日（木）～12月6日（金）

【はじめに】

2013年度オープンカレッジ秋季講座として、『「ドイツ表現主義」とは何かーヒトラーと退廃芸術をめぐるー』が開講されました。この講座では、本学図書館の貴重書コレクション「ドイツ表現主義文庫」と関連させながら、20世紀初頭に起こり現代芸術へのひとつの大きな扉を開く役割を果たしたドイツ表現主義運動の様相を捉え直すとともに、それがナチ・ヒトラー時代に「退廃芸術」として弾圧される過程をたどり、その今日的な意義を探りました。

今回、普段目にするのできない貴重書コレクションを公開し、オープンカレッジ受講生を含めひろく利用者の方々に、ドイツ表現主義の芸術や20世紀初頭のドイツにまつわる世相に触れていただきたく、この展示を実施します。

第1回展示：「ドイツ表現主義」の芸術

11月7日（木）～11月21日（木）

【展示資料】

- **Der blaue Reiter / Herausgeber, Kandinsky, Franz Marc**
請求番号：723.016-B645-P-1,2 （オリジナル版 EX-PB645-1912）
- **Sechzehn farbige Handzeichnungen aus den Skizzenbüchern / von Franz Marc**
請求番号：EX-AM313se
- **Umbra Vitae : nachgelassene Gedichte / Georg Heym ;**
mit 47 Originalholzschnitten von Ernst Ludwig Kirchner
請求番号：EX-AH618u-1924,1924repr
- **Der Kopf : ein Gedicht / von Reinhold von Walter ;**
mit zehn Holzschnitten von Ernst Barlach
請求番号：EX-AW233k

第2回展示：ヒトラーと「退廃芸術展」・「大ドイツ芸術展」

11月22日（金）～12月6日（金）

【展示資料】

- **Große Deutsche Kunstausstellung 1938 : im Haus der Deutschen Kunst zu München, 10. Juli-16. Oktober 1938 / veranstaltet vom Haus der Deutschen Kunst (Neuer Glaspalast)**
請求番号：EX-BE61Yh.g
- **Entartete "Kunst"**
請求番号：EX-BE61Y-E(1),(2)
- **"Degenerate art" : the fate of the avant-garde in Nazi Germany /**
[edited by] Stephanie Barron ; with contributions by Peter Guenther ... [et al.]
請求番号：EX-BE61Yde

ほか

【ドイツ表現主義 (Expressionismus) とは】

20世紀初頭（狭義では、第一次世界大戦を挟んで1905年から1925年ごろまで）に、ドイツを中心に起こった反自然主義・反印象主義傾向を持つ芸術運動の総称。外的印象の「再現」をめざした印象主義に対し、表現主義は内面的なもの、主観的なものの「表現」を重視した。

表現主義を主導したのは、フランスのフォーヴィスム（野獣派）と時を同じくして1905年ドレスデンに設立されたグループ「橋（ブリュッケ）」（Die Brücke）のキルヒナーやヘッケル、11年ミュンヘンで発足した「青騎士」（Der Blaue Reiter）のカンディンスキーやマルク、クレーであるが、その要素は、オーストリアのココシュカやシーレ、彫刻のバルラハやコルヴィッツにも見ることができ、さらにシェーンベルクの無調音楽もその一環と考えられる。

その無定形なラディカリズムや、精神や観念の過剰ゆえに多くの批判にさらされ、1920年前後には早くも衰退し始めるが、近代の物質主義や自然科学的な因果律の支配に疑義を呈し、従来の美術的価値観に揺さぶりをかけた意義は大きく、現代芸術の先駆的な役割を果たしている。

【「退廃芸術展」と「大ドイツ芸術展」】

1933年にゲッベルスが国民啓発・宣伝担当の大臣になると、ナチスの文化統制は厳しさを増し、プロイセン芸術アカデミーの造形部門からの進歩的作家の追放、近代美術を擁護する美術館長や美術館員の解任が相次いで実行に移された。こうした弾圧の頂点をなしたのが「退廃芸術展」である。ドイツ国内の公立美術館から徴発した約600点の作品に「退廃芸術」の烙印を押し、晒しものとして公開したこの展覧会には、表現主義をはじめとして、抽象絵画、新即物主義、ダダイズム、シュルレアリスムなど、20世紀美術の主要な動向にかかわる作品が出品された。

ドイツ国内の統合はもとより、ヨーロッパ支配をもくろむヒトラーとナチスにとって、ギリシア、ローマ以来のヨーロッパの伝統に基づく古典主義の美術は、ドイツ・ナショナリズムのイデオロギー装置として必要不可欠なものであり、とりわけドイツ古典主義の美術こそが模範とするに足る芸術であった。したがって、これに反する近代美術は、すべて「退廃芸術」として排斥されるべきものとみなされたのである。1937年7月19日に始まった「退廃芸術展」は、3か月の開催期間に200万人を超える入場者を記録した。会場を訪れた一般の人々は、自分たちが生活にあえていっているときに、かくも愚劣な絵や彫刻に公金が浪費されていたことに憤激を禁じえなかったとされ、作品に対するナチスの政治的攻撃はみごとに成功したのであった。

こうして近代美術に反感を抱くように仕向けられた大衆が目にするのは、「退廃展」開催の1日前の7月18日から始まった「大ドイツ芸術展」と名づけられた展覧会であった。これは、「退廃芸術の対極に位置する真正のドイツ芸術」884点を一堂に集めて展示し、国民に「民族自身の本質と同時にその芸術の偉大さ、比類なさ」を理解させるべく開かれた展覧会であった。つまり、「大ドイツ芸術展」と「退廃芸術展」とは、表裏一体の関係のものとしてとらえられるべきものといえる。

ヒトラーとナチスは、ドイツの100以上の美術館から1万6000点におよぶ作品を押収し、そのうち4000点以上がみせしめのために焼却され、その他の作品も外貨獲得のために国外に売却された。かくして、「退廃芸術展」は、政治が美術を徹底的に弾圧した行動として、美術史上に深い爪痕を残すことになったのである。

【「獨協大学 ドイツ表現主義文庫」について】

この文庫は、表現主義の文学作品が中心で、多くの初版本が含まれている。カフカ、ベン、ヴェルフェル、ヒラー、ラスカー＝シューラー、トラー、ブレヒト等表現主義文学の中樞を担った錚々たる作家たちの作品が見られ、その相当部分には著者自身の献辞がある。

とりわけ、ラスカー＝シューラーの作品群は多彩を極め、彼女の多くの献辞は言うに及ばず、自筆書簡、自筆版画入り限定本までを含む貴重なものである。

更に、ダダイストのものやドイツ表現主義に多大な影響を及ぼした他国の作家の作品も含まれる。

また、必ずしも表現主義の中に数えることはできないが、同時代及びその前後に亘る時代の息吹を生き生きと伝える政治的著作家、労働者階級の作家、反戦主義者、平和主義者、1918～1919年のドイツ革命にかかわった作家達の作品も含まれている。

そのほか、カンディンスキー、マルクによる「青騎士」(Der Blaue Reiter)、クルト・ピントゥス編集の「人類のあけぼの」(Menschheitsdämmerung)、叢書「デア・ユングステ・ターク」(Der Jungste Tag)、豪華な文学・芸術雑誌「マルシヤス」(Marsyas)等、貴重な資料が含まれている。

図書館蔵書検索(OPAC)で、分類番号「099.321」を入れて検索すると、文庫の書誌データを見ることができる。また、図書館3階には、この文庫に収められている資料のリプリント版や関連資料を集めた「ドイツ表現主義関連資料コーナー」が設置されている。

【関連資料】

- ドイツ表現主義の誕生 / 早崎守俊著 / 三修社, 1996年
請求番号：940.2-H47d 3階 和図書
- ドイツ表現主義の世界：美術と音楽をめぐって / 神林恒道編 / 法律文化社, 1995年
請求番号：702.34-D83d 3階 ドイツ表現主義関連資料コーナー
- ドイツ表現主義の芸術 / 土肥美夫著 / 岩波書店, 1991年
請求番号：723.016-D82 3階 和図書
- ヒトラーと退廃芸術：「退廃芸術展」と「大ドイツ芸術展」 / 関楠生著 /
河出書房新社, 1992年
請求番号：702.34-Se24 3階 ドイツ表現主義関連資料コーナー
- 芸術の危機：ヒトラーと「退廃美術」 / 神奈川県立近代美術館[ほか]編 /
アイメックス・ファインアート, 1995年
請求番号：702.34-G32 3階 ドイツ表現主義関連資料コーナー
- 藝術新潮 1992年9月号「特集：ナチスが捺した退廃芸術の烙印」 / 新潮社
請求番号：P-705-G32-43(9) 3階 ドイツ表現主義関連資料コーナー

この解説は、データベース「JapanKnowledge+」の世界文学大事典、日本大百科全書の記事を引用・編集しています。また、展示の企画にあたってはドイツ語学科 山本 淳 先生にご協力をいただきました。